

陸上貨物運送業の死亡災害が22.5%増加 「墜落・転落」が最も多い

2015年3月20日(金)

陸上貨物運送事業労働災害防止協会(陸災防)が20日発表した2014年年間の労働災害発生状況によると、**陸上運送業の死亡災害**による死亡者数は125人となり、前年同期に比べて**22.5%増加**した。負傷者を加えた死傷者数は1万3986人で0.3%の増加。

事故原因は「**墜落・転落**」が4026件で最も多く、「**転倒**」が2125件、「**動作の反動・無理な動作**」が1852件、「**挟まれ・巻き込まれ**」が1651件、「**交通事故(道路)**」が1010件と続いた。

地域住民への “泥はね” 注意!

バック時は 降りて確認 乗っても確認

追突、玉突き事故を防ぐ **交差点手前**で止まる時は**車1台分のスペース**を空けて止まる

交差点 「右左確認/よ~し！」

◆**左折**時は、**死角**を認識し、安全確認

◆**右折**時は、**対向車**だけでなく、**横断歩行者**にも注意

高齡化で、転倒による労災増加 ◆荷台の登り下り、作業中、足元の確認◆

2015年3月21日(土) 16時48分

和歌山県内の労働災害(休業4日以上)に占める**転倒**の割合が近年、**増えている**。2009年は15%以下だったのが毎年増加し、14年は初めて**20%**を超えた。和歌山労働局によると、**労働者の高齡化**、**転倒は有効な対策が取りにくい**ことなどが要因だが、**重大な災害につながる可能性**もあり、事業場に防止措置を講じるよう啓発していく。転倒は高い場所からの**墜落転落**とは違い、**同一平面上でつまずいたり滑ったりして転ぶ**ことを指す。転倒による労災は、**50歳以上が毎年約6割**を占めていて、**高齡化による体力の衰え**が大きな原因とみられるという。また、**墜落転落**などは対策が可能だが、**転倒は有効な対策が取りづらい**ことから、**相対的に割合が上がっている**ことも想定される。2009年以降**転倒による死亡例はない**など、ほかの労災より**重篤な災害につながる**にくいという印象があるため、**行政を含めて意識が低かった**ことも一因という。

70代女性が新聞集金中に**下り坂で滑って足を骨折**、旅館業の60代女性が**床がぬれていた洗い場**で転んで**ラックで胸を強打**、運送業の30代男性が**トラックの荷台から凍っている地面に降りる際に、転んで腰を捻挫**したなどの事例があった。

7日間で、3件の交通死亡事故、3名死亡!

2015年03月20日 12時02分

昨夜、佐賀県で、国道を**横断中の歩行者**が乗用車に撥ねられ、歩行者の方が**死亡**する事故が発生しました。県下では、**ここ7日間に、3件の交通死亡事故**が連続して発生し、**3人**の方が**死亡**してています。

●**本年の交通死亡事故の特徴は、**

- 夜間**の事故が多い
- 歩行中**の事故が多い
- ドライバーの**前方不注視**による事故が多い
- 高齡者**の事故が多い

●**運転者の方は、**

- ・**前方をよく見て**、歩行者や障害物がないか等を**十分に確認**してください
- ・**横断歩道**や**交差点**では、あらかじめ**減速**して、**歩行者**が居る場合は**必ず停止**してください

●**歩行者の方は、**

- ・**夜間は明るい服装**で**反射材**を活用してください。
- ・**道路を横断**する場合は**渡り始めの左右確認**だけではなく、**中央線付近**でもう一度**左側を確認**してください(そこまで到達する間に**交通の状況が変わっています**)